

相模原女子大学で合同企業説明会



ブースを訪れた学生たち

神奈川地方協力本部相模原地域事務所（所長 大塚2陸尉）は、2月3日（火）、相模女子大学（相模原市南区）で実施された学内業会セミナーに参加した。

本セミナーには例年より多くの学生が訪れ、「自衛隊ではどのような職種があるのか」、「女性に求められることは何か」、「腕立て伏せは何回できればいいのか」などの質問に担当広報官がひとつひとつ丁寧に答えると、「良く分かりました」、「安心しました」と笑顔がこぼれた。

相模原地域事務所は、「今後も、大学生に自衛隊に対する関心を高めていきたい」としている。

川崎市麻生区田園調布学園大学イベント ～こどもがつくる町ミニたまゆり2015～



ブースを訪れる川崎市市長
(左から4番目)

神奈川地方協力本部溝の口募集案内所（所長 上野3陸尉）は、2月7日（土）、8日（日）の2日間、田園調布学園大学（川崎市麻生区）主催の「こどもがつくる町ミニたまゆり2015」に、広報ブースを出展した。

広報ブースには、災害派遣の活動状況のパネル展示をはじめ、制服試着コーナー、南極の氷や石、非常用糧食の展示を行うとともに、神奈川県本物のマスケットキャラクター「はまにゃん」が愛嬌を振りまいた。川崎市市長もブースを訪れ、南極の氷に興味を示していた。また、「自衛隊を受験したいが、自衛隊にはどのような仕事があるのか、訓練は辛くないか」と質問する高校生姿も見られた。

溝の口募集案内所は、「今後も、募集環境が厳しさを増す中、自衛隊に対する理解をより一層深めるための活動を行っていく」としている。



広報官に質問をする高校生



愛嬌をふりまく「はまにゃん」

消防団に空の実情を



指揮所の上で



ドーム（レーダー）見学

神奈川地方協力本部横浜出張所（所長 縣1陸尉）は、2月16日（月）、横浜市港北区の消防団員18名の航空自衛隊御前崎分屯基地研修を支援した。

研修者からは、「航空自衛隊の活動や、日本周辺で繰り返されるスクランブルの実態、日本を取り巻く国際環境の変化など『日本周辺の空事情』を改めて認識することができた」、「日本の平和な空は、航空自衛隊によって守られていることにあらためて気付かされた」、「私たちは消防団員として、地域防災で頑張りたい」、「自衛隊のさまざまな活動を今後とも支援していきたい」などの声が聞かれた。

支援に当たった担当者は、「今回の研修を通じて、消防団員の方々に航空自衛隊の任務と日本を取り巻く空の事情について理解していただいた」と話していた。

横浜出張所は、「今後も、防衛・募集基盤の育成のため、地域レベルの広報活動にも積極的に尽力していきたい」としている。